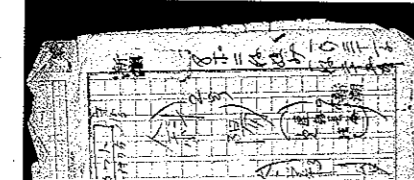


作家、太宰治(1909-48年)「写真」日本近代文学館蔵の代表作の一つ「斜陽」の連載最終回の冒頭の直筆原稿をはじめ、二葉亭四迷や島崎藤村の小説の原稿、石川啄木や菊池寛の手紙など約30点が、新潮社の「斜陽」原稿箱に収められていた(岩手県)

「斜陽」原稿箱に収められていた(岩手県)



「斜陽」の太宰 几帳面

「斜陽」「人間失格」など並ぶ太宰治の著名な作品。単行本は1947年、新潮社から刊行。戦後の没落する上流階級を描き、「斜陽族」などの言葉も生み出した。太宰は本作出版の半年後に自殺した。

のはそのうちの4枚という。太宰には無頼派のイメージがあるが、「直治の遺書」と書かれた連載最終回の冒頭は、乱れのない几帳面な文字で書かれていた。原稿用紙の左上の欄外には印刷所に「早く送られたことを示す印もある。太宰は後にこの部分を

も伝わる。そのほか、「二葉亭四迷の小説「其面影」の草稿や、島崎藤村の短編小説「ある女の生涯」の全原稿、菊池寛が19年、後の出世作となる戯曲「父帰る」の構想を芥川龍之介や久米正雄に伝えた手紙や、夏目漱石のはがきなどもあった。

政府は4月25日、埋め立て区域の北側で護岸建設を開始。護岸は海岸から沖合に向け約100延びている。政府は工事を加速させるため、大型船を護岸に接岸して海上から石材などを大量に搬入することを計画。埋め立て区域の南西側では、資材を搬入するため

がへ。

あなたは、どのアリナミン?

こえたいに。

カラダが だるい・重いと 感じる疲れに。

三大栄養素を効率よく エネルギーに変える働きをして、

毎日感じる その疲れに。

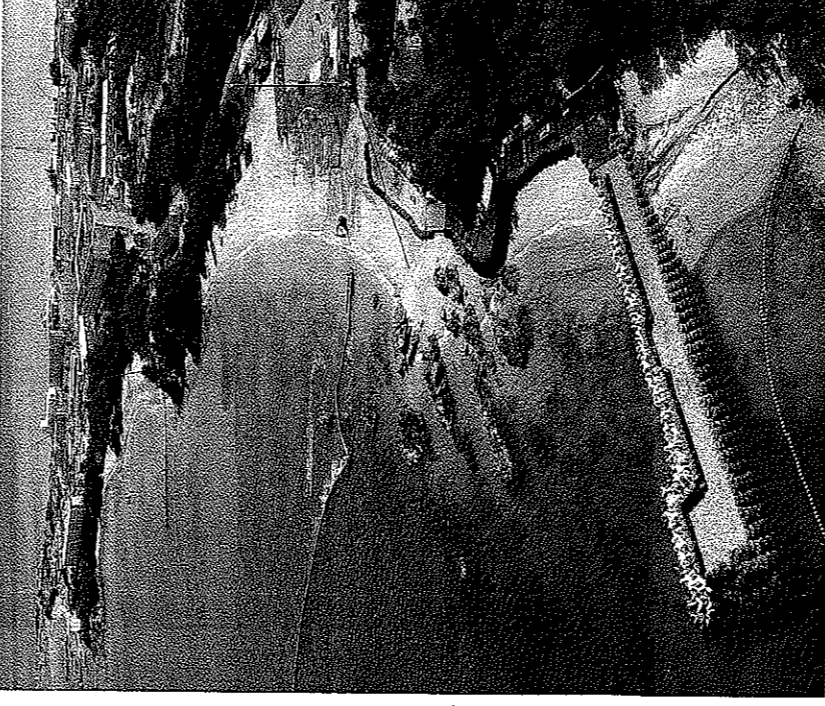
ビタミンB1・B6・B12を補い、 毎日感じる疲れの症状に

目・肩・腰にまで 疲れを感じたら。

日本唯一の処方*。 神経や筋肉の働きを支え血行を

目・肩・腰、 さらに首すじまで つらいと感じたら。

備ついた神経を修復し 血行を改善して



普天間飛行場の移設地で行われている護岸工事の着手から25日。建設された護岸(下)が海に向かって延びてきた。上は米軍キャンプ・シチュワブ(24日午後、沖縄県名護市で)一坂山康成撮影

辺野古護岸 工事進む
着手から半年

沖縄県の米軍普天間飛行場(宜野湾市)の名護市辺野古への移設計画で、政府が移設先の護岸工事に着手してから25日で半年を迎える。現場海域では一部の護岸が沖合に向かって延びるなど、工事が進んでいる様子が確認された。

野島タカ(東京・日本橋馬喰町一丁目) (3662)6991

宇都宮虐待証拠隠滅 県警OBを略式起訴
宇都宮市の知的障害者支援施設「ド・ブライト」で入所者が重傷を負った事件で、宇都宮区検は24日、内部調査の証拠資料を捨てたとして証拠隠滅容疑で逮捕された栃木県警OBで、施設を運営する社会福祉法人「瑞宝会」職員2人を証拠隠滅罪で宇都宮簡裁に略式起訴した。同簡裁は同日、罰金30万円の略式命令を出した。略式起訴されたのは、宇都宮市の手塚通(68)と同県大田原市の斎藤博之(58)両容疑者。共謀したとして逮捕された当時のド・ブライト施設長の男性(57)と同容疑者18日に書類送検された現在の施設長の男性は不起訴(起訴猶予)とした。

野島タカ(東京・日本橋馬喰町一丁目) (3662)6991

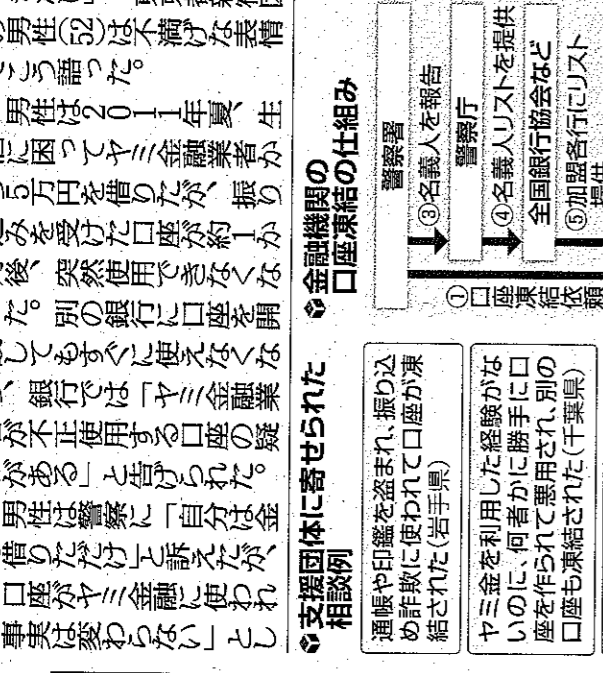
野島タカ(東京・日本橋馬喰町一丁目) (3662)6991

ヤミ金融から口座凍結

不正使用 警察に疑われ

ヤミ金融から借金しただけに、金融機関から口座を凍結され、新規開設もできなくなるケースが相次いでいる。口座が犯罪に使われたと警察からみなされたことが理由とみられる。弁護士らで作る支援団体は、警察庁や全国銀行協会などに、口座凍結の基準や運用の見直しを要請している。

生活に制約 男性は2011年夏、生活に困ってヤミ金融業者から5万円を借りたが、振り込みを受けた口座が約1か月後、突然使用できなくなった。別の銀行に口座を開き、振り込みを受けようとしたが、銀行では「ヤミ金融業者が不正使用する口座の疑いがある」と告げられた。男性は警察に「自分は金を借りただけと訴えたが、口座がヤミ金融に使われた事実は変わらない」として、対応してもらえなかったという。



男性が相談した弁護士と司法書士計約100人で作る「大阪クセサウ・貧困被害をなくす会」(大阪市)によると、ヤミ金融業者は近年、自らの口座の凍結を避けるため、「返済金」を別の借り主の口座に「貸付金」として直接振り込ませるなど、顧客同士で金やりとりさせるという。男性が借りた5万円も別の借り主から直接振り込まれており、男性の口座がヤミ金融の「貸付金回収用口座」と警察にみなされた可能性がある。

口座凍結は、08年に施行された「振り込み詐欺救済法」などに基づいて行われている措置。警察などが金融機関に情報を提供し、金融機関は犯罪で使われた疑いがある口座を凍結する仕組みだ。凍結した口座の残金は、被害者に分配される。同会には昨年10月から1年で口座凍結の相談が全国から77件寄せられた。車上荒らしにあつて通帳を盗まれた後、凍結された「誰かに勝手に口座を作られた」との相談もあるという。

リストに5万人 警察庁が09年1月から運用する「凍結口座名義人リスト」にはヤミ金融や特殊詐欺に使われた疑いがあるとして、警察が各金融機関に凍結を依頼した口座の名義人情報が掲載されている。7月末時点の掲載者は約5万8000人になる。リストは月2回、同行から全国銀行協会などに提供され、加盟行で共有。全銀協は「リストの活用は各行が個別に判断する」としているが、「なくす会」ではリスト掲載者の口座は凍結され、新規開設も拒まれていくとみている。同会では昨年10月、不正目的がないと確認できればリスト掲載者でも口座開設に応じるよう、警察庁や全銀協などに要請した。全銀協は「不正利用を検証して凍結すること」と加盟行に通知。警察庁は取材に「犯罪と無関係だと明らかになれば、警察署の判断でリストから外す」と回答しているが、同会では「凍結や解除の基準が明確でない。各行任せのままでは現状は何も変わっていない」と批判する。 沼沢英道・元常磐大学長(被害者学)は、「被害者救済の道を開いた振り込み詐欺救済法の意義は大きい。が、口座凍結などの判断が事実上、警察に委ねられているのは危険。リスト掲載や凍結が適正かどうかを検証する不服申し立て機関などの救済制度が必要だ」と指摘している。

「斜陽」 「人間失格」など並ぶ太宰治の著名な作品。単行本は1947年、新潮社から刊行。戦後の没落する上流階級を描き、「斜陽族」などの言葉も生み出した。太宰は本作出版の半年後に自殺した。